

令和元年浅野高等学校昭和28年度卒同期会開催報告

令和元年(2019)年6月6日

卒後66年を迎えた今年、同期会を5月18日に川崎の清水山無量院で開催した。無量院は大久保公之兄が住職をしている。無量院は天台宗の寺院で、准秩父34番の15番霊場である。本堂にて、大久保兄を導師として、読経、説法を聞き、出席者全員がご焼香を行い、卒業以来亡くなった友のご冥福を祈った。その後、「ザ・ニューオークラ」に席を移し、会食・懇談を行った。本年3月9日に岡村清市君が亡くなり、連絡可能な友は71人となった。卒業以来59人を失ったこととなる。

昨年開催の同期会には9人が、本年は10人が集まった。中村順一兄が浅野学園同窓会長就任以来、100周年記念事業を起爆材として、同窓会の活性化が着実に実現していることは喜ばしい限りである。

今年度の出席者は、A組：小澤、栗原、宇田川、高橋保、B組：篠田、樋口、高橋不、C組：中村順、大久保、枝川でした。

出席の諸兄は皆元気で、久しぶりに多岐に亘って話を咲かせた3時間でした。特に、恩師の思い出では枕言葉の「あだ名」から始まり、いまさらながら素晴らしい先生に教わったのだと改めて認識を深め、懐かしさと感謝の気持ちを共有した。

宇田川欽也、高橋不二雄、栗原 隆
(栗原記)

無量院本堂前で撮影

